

平成29年度 学校評価【最終報告】

職員アンケート結果 A：満足 B：やや満足

C：やや不満 D：不満

(1) 「確かな学力」を身につけ、「夢」や「志」の実現に粘り強く挑戦する生徒の育成

項目	部・学年	目標(課題)	評価指数	中間評価	最終報告	A	B	C	D	スコア 4点	最終評価	次年度へ向けた展望	学校評議員・学校関係者評価委員の提言
①学習習慣の確立と学ぶ意欲・態度の涵養(教科)	国語	自分の考えを伝える機会を増やし、班内で意見を出し合い発表するなど、グループ学習を増やす。授業内での言語活動をさらに充実させる。	授業内でのペアワーク・グループワークの要素を取り入れ、主体的に取り組む生徒を80%以上にする。	B	各授業でペアワークやグループワークを適宜行っている。主体的に取り組める生徒も少しずつ増えている。	10%	76%	14%	0%	3.0	B	主体的な活動ができる授業を創っていかなければならない	■各教科での取組は、誠実かつ確実であると思う。きめ細やかな指導を継続して、すすめていくとよいと思う。
	地公	ICT機器を利用し、よりイメージしやすくする。	小テストを実施し、授業理解度を50%上げる。	B	小テストへの取り組みが少しずつ良くなった。	0%	88%	6%	6%	2.8	B	ICTの活用を増やす。	
	数学	問題演習時に生徒に発表・解説を行わせ、短いスパンでの定期的な小テストを実施する。	理解度、伝える力を向上させ80%の生徒が満点をとる。	B	定期的な小テストは実施しているが、80%の生徒が満点をとるには至っていない。	6%	75%	19%	0%	2.9	B	小テスト問題の見直し補充の充実	
	数学	理系⇒記述式の週末課題の実施	実施率：90%を目指す。	A	提出率も100%であり、達成できた。	53%	47%	0%	0%	3.5	A	今年度の反省もふまえ、来年度も引き続き実施する。	
	体育	体育委員を中心とした、能動的な授業展開を行う。	リーダーシップの育成とコミュニケーション能力を向上させる。	B	まだまだ不十分であった。教師側が主導する部分が多かった。	6%	82%	12%	0%	2.9	C	体育委員会を開くなど、本当の意味での育成をおこなっていく。	
	情報	生徒の能力に応じた課題を設定し、個に応じた学習指導を実施する。	情報処理検定試験合格者を30%にする(H28 11%)	A	25名受験し、8名合格(32%)。	0%	100%	0%	0%	3.0	A	筆記試験の正答率を高め、合格者数の増加を目指す。	
①学習習慣の確立と学ぶ意欲・態度の涵養	1学年	8:30登校を利用した小テストを実施し、学習習慣の定着と基礎学力の伸長を図る。	各教科年間20回以上小テストを実施し、平均70%以上の正答率を目指す。	A	各教科年間20回の小テストを実施することができた。平均70%以上の正答率を達成した。	43%	48%	9%	0%	3.3	A	次年度も各教科年間20回以上小テストを実施し、平均70%以上の正答率を目指す。	■各学年で具体的な指標を持ち、取り組んでいることがすばらしいと思う。今後も継続して取り組んでほしい。 ■小テストの合格率、得点率の低さが気になる。テスト結果の見直しを充実させるとともに、それによって誤答の修正、正答や記憶の定着を図ることが重要ではないか。(テストの内容を見ているないので的外れかもしれないが・・・) ■朝の時間を有効に利用するのは良いと思う。(週何回か7校時も取り入れてはどうか) ■2学年の手帳の活用で、2～3行でもよいので、終礼時にその日振り返って日記をつけるのはどうか。
	2学年	手帳を常に携帯・活用し、学習計画・進路計画を可視化させる。	手帳の携帯・活用率を90%以上にする。(H28：70%)	B	スケジュール管理や学習計画、一日の振り返り等に活用する生徒が増えた。	0%	62%	33%	5%	2.6	B	今後アンケートを実施して、来年度の進路実現に向けて、より有効な活用方法とそれを促進する方法を検討する。	
		朝の時間帯を有効活用し、漢字・語彙と英単語の小テストを定期的実施する。	小テストの合格率50%以上、平均得点率60%以上にする。	B	漢字・語彙小テスト(19回実施)は合格率26.8%、平均得点率48.7%。英単語小テスト(18回実施)は合格率48%、平均得点率59%。後半になり難易度が上がったことで、合格率・得点率がやや下がったが、一定効果を上げた。	0%	70%	30%	0%	2.7	B	来年度は進路実現に向けて、より生徒の実態に即し、かつ効果の上がる形(クラスにより記述・マーク式に分け難易度を変える等)で、継続的に実施していく。	
		学期当初や定期考査前等に、適宜担任が個別に面談し、指導助言を行う。	各生徒の個人面談年間3回以上行う。	A	各学期に1回ずつ全員に実施。それ以外の機会にも、必要のある者にはその都度実施した。	50%	45%	5%	0%	3.5	A	来年度は進路に関する相談等、より細やかで個に応じた指導を心掛ける。	
	3学年	進路希望別の補習を実施し、大学受験における難易度別の補習を実施する。	模試G T Z(学習到達ゾーン)でのBランク以上を各教科で50名以上を目指す。	A	11月の模試(最終)では、G T ZにおけるBランク以上が国語51名、英語44名などすべての教科で昨年を上回る数字であった。	35%	55%	10%	0%	3.3	A	補習の実施状況や実力考査の分析結果を明確な形で次年度に残したいと考えている。	
		学力向上委員会	生徒による授業評価を実施し、積極的に授業に関わる態度を育てる。	年間3回以上生徒による授業評価を行う。	C	授業評価は任意であるため、実施していない教員が多数いるようである。当委員会からの積極的な呼びかけが必要であった。	4%	36%	56%	4%	2.4	C	
②生徒個々の適性を見極め、能力を伸ばす進路指導(1)	3学年	年間を通じて進学補習を実施し、生徒の意識を高めつつ目標とする進学先への合格者を増やす。	大学・短大進学率60%以上、さらに難関校(国公立大、関関同立、産近甲龍など)への合格者20名以上を実現する。	B	大学・短大進学希望者は66%であり、昨年とほぼ同じである。1月26日現在で、国公立大学合格者2名、難関私立大学の合格者は5名である。推薦入試の結果は、昨年と変わらないが、一般入試では国公立大学に4名、難関私立大学に20名以上受験予定であり、昨年を上回っている。	4%	83%	13%	0%	2.9	A	昨年同様、42回生で実施した進路指導の方法や生徒個々の分析結果を、明確な形で次年度に残したいと考えている。	
		個々の適性を見計らい、進路に向けた意識を向上させつつ就職指導を行う。	学校斡旋による就職内定率100%を目指す。	B	最終的に、学校斡旋による就職内定率100%を達成した。	13%	78%	9%	0%	3.0	A	毎年、進路指導部が中心となり、綿密な計画により学校斡旋による就職内定率100%を達成している。今後、公務員試験を合格させるために、2年生からの計画的な取り組みが必要であろう。	

項目	部・学年	目標(課題)	評価指数	中間評価	最終報告	A B C D				※※※※ 最終評価	次年度へ向けた展望	学校評議員・学校関係評価委員の提言
						A	B	C	D			
②生徒個々の適性を見極め、能力を伸ばす進路指導(2)	進路指導	生徒の進路希望に応じて適切な時期に情報提供ができるようにするとともに、個々に応じた丁寧な進路指導を行う。	最終進路先「未定」の者の割合が10%以下となるように学年と連携を図。Rう	B	最終的な結果はまだ出ていないが、年度途中で希望する進路が変更になった者に対しても学年と連携し、対応している。	10%	75%	15%	0%	3.0	B	■1年生より、進路情報を提示し、早い段階からの意識付けを行う方がよい。
	キャリア教育推進委員会	従前のキャリア教育の研究を継承し、本校独自の取組を実施していく。	委員会を中心にキャリア教育の研修会を2回実施する。	B	オープン参加の研修会の実施となったが、その場で得られた様々な意見を次年度の夏季体験学習に反映できるよう、計画を進める。	9%	77%	14%	0%	3.0	C	
③わかる授業の工夫とアクティブな学びに向けた研究授業の実施(教科)	国語	教科内でのアクティブ・ラーニングの導入に向けての授業研究会を実施する。	互いの授業を研究し、検討会を学期に1回実施する。	C	2学期に1度実施。教科内での協議に十分に時間を割くことができなかった。3学期に実施予定。	0%	41%	55%	5%	2.4	B	来年度も引き続き実施しようとする。
	数学	教科内でのアクティブ・ラーニングの導入に向けての授業研究会を実施する。	研究会を学期に1回行い、成果をまとめる。	C	2学期に2度実施。教科内での協議に時間を割くことができなかった。3学期に実施予定。	6%	50%	44%	0%	2.6	B	今年度の反省もふまえ、来年度も引き続き実施する。
	地公	グループ学習を取り入れ、知識の定着を図る。	生徒アンケートを実施し、主体的に取り組む生徒を80%にする。	B	アンケートの実施回数は増えたが、グループ学習の時間が少なかった。	0%	78%	22%	0%	2.8	B	グループ学習の時間を作るようにする。
	理科	日常生活から具体例を示し、観察・実験を行う。	授業満足度を75%にする。	B	生徒による授業評価で87%が満足していると回答(3-5生物)。引き続き、生徒による授業アンケートの結果を利用し、PDCAサイクルに基づいた授業改善を実施したい。	6%	81%	13%	0%	2.9	B	来年度も引き続き実施しようとする。
	理科	教科内でのアクティブ・ラーニングの導入に向けての授業研究会を実施する。	研究会を学期に1回行い、成果をまとめる。	C	12・1月に教科で研究会を実施した。2月にも実施予定。	0%	67%	33%	0%	2.7	B	来年度も引き続き実施しようとする。
	芸術	生徒が主体的に授業に臨む姿勢を育むためにグループワークを行う。	グループワークを各単元で1回以上設ける。	B	音楽ⅠⅡ・美術ⅠⅡでは達成できた。その他の科目でも実践していきたい。	0%	87%	13%	0%	2.9	B	■新たな教育実践について、校内での研究発表会(研修会)を行ってはどうか。
	英語	授業内での言語活動をさらに充実させる。	ペアワーク、グループワークの要素を取り入れ、授業満足度を80%以上にする。	B	アンケート実施回数は授業によって様々だが、満足度向上のために各授業で取り組んでいる。	11%	72%	11%	6%	2.9	B	満足度の低い授業に対してどのように対応するのかを教科だけでなく学校全体で共有する必要がある。
	英語	ICT機器を活用する。	ICTを使用し、生徒の授業理解を促進させる。80%以上授業に出席している生徒の未修得者を0にする。	C	モニター、プロジェクターの使用等授業によって使用方法は異なっている。	0%	33%	67%	0%	2.3	B	モニターの準備など手間がかかるので取り入れにくい。学校として取り入れやすい環境を作ってほしい。
	家庭	単元前後にアンケートを実施し、学習に対する取り組みや理解度を計る。	学習後の授業理解度を80%にする。	C	時間に余裕のある授業ではグループ学習等取り入れることができた。クラスにより差もあったが、熱心に取り組んだ。	6%	44%	50%	0%	2.6	B	グループ学習には積極的に取り組むことができたが、限られた時間の中でいかに学習内容を精査し、取り入れることができるのか見当したい。
	情報	タブレットPCを使用し、生徒にプレゼンテーションを行わせる。	生徒による相互評価を行い、数値化する。	B	ノートパソコンでの個人プレゼンテーションを実施し、生徒同士の相互評価を行った。	9%	73%	18%	0%	2.9	B	実施時期、発表内容について検討する。
③わかる授業の工夫とアクティブな学びに向けた研究授業の実施	特色推進	PTA予算よりiPadを10台導入し、図書館内において授業活用する。(2学期後半予定)	iPadを使った授業事例マニュアル(指導案)を作成する。	D	wifi環境を整えた。それにより、ipad 10台を購入。2月中旬、職員に使用マニュアルを配布。	5%	25%	15%	55%	1.8	A	グループワークでの活用、プレゼン準備に関して活用する。
	2学年	ブラッシュアップⅡ・総合的な学習の時間の、能動的・協動的な取り組みを通じて、AO入試・推薦入試等に対応する実践的な力を身に付けさせる。	ブラッシュアップⅡ・総合的な学習の時間を全員が履修・習得する。	A	ほとんどの生徒がしっかりと取り組み、成果を上げた。取り組みの不十分な生徒や欠席が多い生徒に対しては、個別に指導を行い、一定の効果も上げた。	40%	50%	10%	0%	3.3	A	本年度の土台の上に、より発展的かつ実践的な力を身につけさせるよう、総合的な学習の時間の内容の見直しを進める。
	教育課程委員会	各教科の目標を明確にし、年度末にその成果と課題を明らかにする。	教科の数値目標を設定させる。	B	年度当初に各教科シラバス(講義概要)を作成し授業を展開した。成果と課題は上記各教科の報告参照。	4%	83%	9%	4%	2.9	B	教科内での情報共有だけでなく、学校全体で共有できるようにしたい。
	学力向上委員会	メンター制を実施し、教員相互の資質向上を図り、授業力を向上させる。	メンターによる年間3回以上の研究会を実施する。	B	メンター(先輩教師)がメンター(後輩教師)に対して、随時指導されているようである。メンターの公開授業や研究授業にはビデオや写真を撮り、空き時間を利用して協議するなどメンターに対する細かな指導の様子が見られた。	0%	69%	23%	8%	2.6	B	■iPadを利用した教育研究実践を推し進めてほしい。

(2) 思いやりの心と規範意識を持ち、共生社会の実現を目指す人間性豊かな生徒の育成

項目	部・学年	目標(課題)	評価指数	中間評価	最終報告	A B C D				スコア	最終評価	次年度へ向けた展望	学校評議員・学校関係者評価委員の提言
						A	B	C	D				
①社会のマナーやルールを尊重し、他者を思いやる心を育む生徒指導	1学年	ルール・マナーの徹底を図る。	特別指導件数を年間3件以内にす る。(H28:1学年8件)	B	特別指導件数は年間6件であった。	4%	46%	46%	4%	2.5	B	修学旅行、夏季体験学習に向けて、さら にルール・マナーの徹底を図りたい。	■各学年・生徒指導部の積極的な取組 により成果が上がっていると思う。次 年度も同様実践すればよいと思う。 ■外部から講師(社会人)を呼ぶなど して、社会のルールマナーの向上を 目指してはどうか。
		積極的な生徒指導を実践し、特別指導 件数を減少させる。	月間3回以上での本人指導件数を学 期3件以内にす。服 装指導該当者を0にする。	A	月間5回以上の遅刻での保護者来校は0 件、服装指導該当者は0であった。	39%	30%	30%	0%	3.1	A	さらに積極的な生徒指導を実践し、いじ めをなくし、特別指導件数を減少させ る。	
	生徒指導	教員が生徒個々に真に関わる時間を 少しでも多く持つよう、業務の合理 化に取り組む。	特別指導件数10件以内にす。 (H28:25件)	B	問題行動件数：1月末現在16件。業務の 改善を行っているものの、問題行動等 が起こったときには、教師の仕事量が格 段に増え、他の生徒へのサポートが困難 となる。	4%	65%	31%	0%	2.7	B	更に内規の見直しや提出書類の簡略化な どを進めることで、教師が生徒に寄り添 う生徒指導を行えるようにする。これに より、特別指導件数を減らす。	
	3学年	遅刻指導・服装指導・携帯指導や登下 校指導を徹底し、自発的な基本的生活 習慣の確立を目指す。	月間5回以上の遅刻での保護者来校 件数0件、また問題行動による特別 指導やいじめの発生件数0件を目指 す。	A	1月末までに、月間5回以上の遅刻での保 護者来校1件、また問題行動による特別 指導やいじめの発生件数3件である。	26%	30%	39%	4%	2.8	B	年間の保護者来校者数や特別指導件数は 例年に比べ減少している。しかし、2学期 に連続して特別指導が発生した。年間を 通じて、継続的で緻密な生徒への注意喚 起と事前指導が必要である。	
	2学年	人権LHRや学年集会、日々の教育活 動を通じて、他者への共感・寛容の姿 勢や高い規範意識を身に着けさせる。	いじめ・特別指導の発生件数0件に する。 (H28:2学年10件)	C	原付無免許運転・飲酒喫煙・考査不正行 為・暴言・SNS上での迷惑行為等によ る特別指導(謹慎・罰金)が計7件あ った。いじめは発生しなかったが、人間関 係のトラブルは複数件あり、その都度対 応した。	0%	40%	55%	5%	2.4	C	昨年度の同学年と比べ減少しているよう だが、様々な種類の問題行動が発生し た。日頃から各教員が生徒の動向・表情等 に目を配り、常に情報共有しつつ、きめ 細やかな指導を継続していく。	
		海外修学旅行でのキャリア別研修・異 文化体験・平和学習等を通じて、異文 化や異なる歴史観を理解・尊重する姿 勢を養う。	修学旅行アンケートにおける各研修 プログラムの満足度90%以上にす る。		2/1(木)~5(日)、北海道富良野・札幌・小 樽方面への修学旅行を実施予定(最終報告 時点では未実施)。	0%	78%	11%	11%	2.7		アンケート未実施。	
②生徒会活動やボランティア活動を通じた自己有用感の育成	生徒指導	学級役員の役割を明確にし、学校全体 に役立てる。生徒に責任感を持たせる ことで、自己有用感へと繋げる。緑化 委員：グリーンカーテンの設置・風紀 委員：私物持ち帰りの管理・図書委 員：図書貸出業務・体育委員：授業 リーダー及び体育祭運営・文化委員： 文化祭運営	生徒委員会の活動回数を年間50回 (週2回)にする。 また各種行事の運営を100%行う。	B	学級役員の機能は7割以上果たせた。後 半は行事がなく、活動機会が少なくな った。風紀委員は、「歩きスマホ禁止」の ポスターを作成。このような活動を来年 度以降、増やしていきたいと考えてい る。	0%	82%	18%	0%	2.8	B	学級役員の仕事内容を具体化した上で、 各クラスでの役員決定を行う。その際、 各役員の仕事内容はこれまでにない新し い内容も提示し、委員会活動を活発に し、学校全体の活性化へとつなげる。	■生徒中心の活動の場をしっかりと用 意し、生徒が確実に活動を推し進めて いることがわかる。次年度も本年と同 様にしてほしい。
	特色推進	外部からの要請があれば、ボランティ ア同好会、ひがだねボランティアチ ームが出向き、多くの方々に喜んでら う活動を行う。	H29年度は、20回以上の校外活動を突 施する。 (H28:15回実施)	A	校外活動25回実施(1/18)	56%	33%	11%	0%	3.4	A	年間40回の活動を目標とする。	■生徒会委員等を活用し、朝の校門で の「あいさつ運動」などを実施しては どうか。
③他者の人権を尊重し、異なる文化や生き方を理解しようとする態度の涵養	総務	講演会や授業、HR等を通じて人権教育 を行う。	各学年、全学年で年間3回以上人権 教育を行う。	C	人の命、人権を大切にす教育は、防災 教育の中で実施した。本校には経済的に 苦しい生徒や外国籍の生徒も在籍する。 人権無視の行為・発言などは発現しな かったが、今後も全力で取り組みたい。	0%	41%	59%	0%	2.4	B	本校生徒には、日々の学校生活中で、人 の命や人権に関する意識を養っていくこ とが必要であり最適であると考え。H R、学校行事、部活動などの場で、適切 な取り組みを目指したい。	■「職員アンケート」の結果があまり 良くなかった理由を確認し、意識的に 人権教育を行ってほしい。
④自らの命を守り、緊急時に主体的に行動できる生徒を育む防災教育の推進	総務	避難訓練、防災講演会、防災対策等の 行事を通じて自助の意識を高めさせ る。	火災、地震とそれぞれの避難訓練を 年1回ずつ行い、地域との連携で訓 練及び防災対策についての協議を行 う。	B	今年度は過去の防災訓練とは違い12月に 地震後の津波を想定した水平避難訓練を 行った。その検証も含め地域と近隣企業 に参加して頂き防災会議を行った。本年 度は防災アドバイザーもご参加頂き、よ り深い防災に関する知識と情報を得られ た。	47%	47%	5%	0%	3.4	A	本年度実施した避難訓練と防災会議で得 られた情報をまとめ地域に発信できる形 を構築する。また次年度も防災アドバ イザーには引き続き依頼したいと考えてい る。この数年は本校が起点となり深江浜 の地域と企業と共に防災について考える 場を作ってきたが今後は行政からの指導 が仰げられるかたちに移行していくのが望ま しい。	■「水平避難訓練」は大変だったと思 う。様々な方法で防災教育を推進する よいと思う。
		避難所体験宿泊訓練を地域と合同で突 施し、発災時に地域で活躍できる人材 を育成する。	避難所体験宿泊訓練に20名以上が参 加する。		生徒10名、深江地域より5名参加してい ただき、充実したプログラムを丁寧にこ なすことができた。	44%	50%	6%	0%	3.4	A	参加者を増やすか、別の方法で体験中心 の防災プログラムを実施するか、今後検 討する。	■得られた情報を発信することは、ぜ ひお願いしたい。情報発信と同時に地 域とともに共通の課題を発見し、改善 することによって、有事への対応の改 善に資すると思われる。

(3) 心身ともに健康で、社会の変化に柔軟に対応できる生徒の育成

職員アンケート結果 A:満足 B:やや満足 C:やや不満 D:不満

項目	部・学年	目標(課題)	評価指数	中間評価	最終報告	A B C D				スコア	最終評価	次年度へ向けた展望	学校評議員・学校関係者評価委員の提言
						A	B	C	D				
①社会とつながり自立した生き方について考えるキャリア教育の推進	進路指導	2学年夏季体験学習におけるコース別内容や実施要領の精査と充実を図る。	生徒の事後アンケートにおける満足度を90%以上とする。	A	事後アンケートの満足度は目標を達成した。その後の“第1志望に向けて”の取り組みへの流れも概ね良好であった。	11%	79%	11%	0%	2.8	A	全体の満足度だけでなく、コース別の満足度や実施における課題を見直し、生徒自身が進路や生き方について考えを深められるように計画する。	■キャリア教育の推進が、自己の生き方や自己肯定感を持たせる機会となり、それが学ぶ意欲につながると思う。進路指導部と学年が協働して、現在行っている取組を発展させてほしい。
	2学年	夏季体験学習を始めとする各種の校外学習プログラム参加を通じて、大学・専門学校や企業に対する理解を深め、自身の進路実現に結び付けさせる。	夏季体験学習アンケートにおける各体験プログラムの満足度90%以上にする。	A	満足度96%。当初の目的を達成した。就業体験の欠席・早退等、自己管理の問題が散見された。	0%	69%	31%	0%	3.4	B	体験学習から得たものを来年度の各自の進路実現につなげる。講話等を通じて、社会人の責任としての自己管理の重要性への認識を高めさせる。	
	3学年	朝読書や教科学習・ホームルーム活動での図書館の積極的な利用を通じて、より豊かな感性・思考力を涵養する。	朝読書の本持参率100%にする。	A	昨年度より時間が短くなり、(10分→5分)小テストを実施(月・水)したこともあって、読書以外の目的に時間を活用することが多かった。	7%	80%	13%	0%	2.4	A	朝の時間帯の活用方法については、時差登校のあり方も含めて、各学年での効果的な取り組みを、読書にこだわらず再検討する。	
	3学年	手帳を活用し、自己管理の大切さを意識させ、適宜学年集会を開催して、意識の統一を図る。	手帳による自己管理、時間管理の徹底を図り、手帳の持参率100%を目指す。(H28:90%)	C	学年集会では必ず手帳を持参し、必要事項をメモするよう指導した。その結果、最後の学年集会ではほとんどの生徒がメモを持参し必要事項を記入していた。	53%	37%	11%	0%	3.4	B	教師が主導し、随時メモを取るよう習慣づける取り組みが必要である。	
②政治的教養を高め、社会に主体的に関わりようとする態度の育成(教科)	地公	学習内容を日常生活に関連付け、興味関心を持たせる。	毎授業で、時事の話題を取り上げる。	B	科目により回数の違いはあるが、できるだけ時事問題と絡めるように努めた。	11%	79%	11%	0%	3.0	B	時事問題を扱う時間を増やす努力が必要である。	■政治的な内容を指導するのは、難しい点が多くあると思うが、授業や特別活動で定期的に展開してほしい。
	家庭	単元の最後に、新聞記事や統計等の資料を用いて、現代社会の問題を理解し、意見をまとめる。また、意見を共有する。	記入後、アンケートを実施し、現代社会の課題について80%以上の生徒が理解できるようにする。また、その課題に対して各自の意見を持つことができるようにする。	B	2・3学期は授業数も少なく、1年生の授業では実施することができなかった。選択授業では実施したが、生徒の知識も少なく思うような学習効果は見られなかった。	0%	69%	31%	0%	2.7	C	話し合いをする際の材料となるように、事前課題を十分与えることで生徒の知識を増やした状態で授業を展開する。また、1時間で授業が簡潔できるよう内容を絞る。	
	総務	講演会等を通じて選挙権に関する知識、関心を高める。	年度当初に投票に関する講演会を開催する。(1回以上)	B	3年生を対象に選挙についての講演を行った。模擬投票などの体験的な内容も今後は検討していきたい。	7%	80%	13%	0%	2.9	B	今後は模擬投票などの体験的な内容についてだけでなく2年次に選挙についての講演等を行うことも検討する。	
③読書活動や学校図書館の活用を通じた感性や思考力の育成	特色推進	図書室を定期的に開館する。	H29.5.10より開館。	A	図書委員の仕事やミーティングを自発的にこなすようになってきた。	53%	37%	11%	0%	3.4	A	週2回から週3回の開館に向けて準備	■自習ブース設置はよいと思う。年度が替わっても、自習ブースのPRをしっかりと行い、多くの生徒に活用してほしい。
	特色推進	新しい本を定期的に入れ、『図書だより』発行紙図書活動の啓発を行う。	『図書だより』年に6回発行する。	B	掲示や配布で、読書啓発を行うことができた。	26%	63%	11%	0%	3.2	A	今後も図書委員を中心として発行する	
	特色推進	図書室の自習ブースを作る。	自習机とデスクライトを図書室に20台設置する。	A	自習環境を整えることができた。	65%	25%	10%	0%	3.6	A	考査前、考査中のみならず、放課後の学習場所としての活用も継続	

【活ある組織づくり】

(1) 情報の発信・共有

職員アンケート結果 A:満足 B:やや満足 C:やや不満 D:不満

項目	部・学年	目標(課題)	評価指数	中間評価	最終報告	A B C D				スコア	最終評価	次年度へ向けた展望	学校評議員・学校関係者評価委員の提言
						A	B	C	D				
①家庭・地域・中学校等関係機関への積極的な情報発信(1)	進路指導	進路だよりを定期的に発行し、生徒や保護者への情報発信に努める。	年間5回以上発行する。	B	現時点で第4号まで発行し、3学期末に第5号を発行する準備中である。	21%	74%	5%	0%	3.2	B	生徒だけではなく保護者も意識した内容を充実させる。	■貴校では、積極的な教育活動を行っているため、各種メディアでの情報発信を継続して行ってほしい。定期的な学年通書の発行は大変だと思うが、今後も継続して取り組んでほしい。
	総務	メールシステム、ホームページ等で保護者への連絡を行う。	生徒・保護者へメールシステムでの連絡を随時発信(30回以上)する。(H28:17回発信)	B	安否確認メールのシステムを試行し後日の避難訓練にも採用した。	6%	59%	29%	6%	2.6	B	生徒や保護者が日常でメールシステムを活用しやすくなるようにする。	
	保健	保健だよりを毎月発行し、生徒や保護者へのタイムリーな健康情報発信に努める。	年間12回以上の発行	A	毎月タイムリーな健康情報を発信することが出来た。	53%	37%	11%	0%	3.4	A	地域の流行情報等を的確に把握し、予防および拡大防止対策に努めていきたい	
	特色推進	ブログ、ホームページ等で校内活動の発信を各行事ごとに行い、学校紹介動画を作成しHPに掲載する。	月間ホームページ閲覧者3000アクセスを目指す。(WordPressの統計情報による)(H28:3077アクセス/月)	A	9月 8648回 10月 7173回 11月 6718回 12月 6702回 1月 6976回	47%	37%	16%	0%	3.3	A	緊急時に、ホームページのアクセスが多く、サーバーダウンが起こったので、何かしらの方法で、改善しなければならぬ。	
	特色推進	オープンハイスクール、学校説明会の来校者数を増加させる。	目標数 8月22日(火)500人 23日(水)500人 11月18日(土)300人	A	11月 中学生159人 保護者82人	37%	53%	11%	0%	3.3	A	暑さ対策は考えなければならないが、全体会の場所は、体育館の実施はやむを得ないかもしれない。吹奏楽部や軽音部の協力も得ながら、華やかさも演出できればと思う。	

項目	部・学年	目標（課題）	評価指数	中間評価	最終報告	A B C D				スコア	最終評価	次年度へ向けた展望	学校評議員・学校関係者評価委員の提言
						A	B	C	D				
①家庭・地域・中学校等関係機関への積極的な情報発信(2)	2学年	学年通信の定期的な発行により、家庭への情報発信を密に行う。	学年通信の発行年間10回以上行う。	B	2学期以降発行の機会が減少し、1月末時点で5回の発行に留まっている。	0%	67%	33%	0%	2.7	C	紙媒体による学年通信の発行のみにこだわらず幅広く検討し、より効果的な保護者への連絡・情報発信の方法を検討する。	■中学校に掲示するポスターを工夫し、目立つようにするのがよい。（中学校には、私学などを含め多くのポスターが数多く貼られている）※体験型オープンハイスクール等を行ってはどうか。
	3学年	学年通信「限界突破」やLHR・面談等を通して、積極的に生徒や保護者に情報発信を行う。	月1回以上、学年通信を発行。期間を限定せず、随時主任および担任による面談を実施する。	A	月1回ペースで、学年通信を発行することができた。随時主任および担任による面談を実施することができた。	43%	52%	4%	0%	3.4	A	学年当初、こちらから呼びかけて面談を実施していたが、後半になると自発的に面談を希望する生徒が増えた。いつでも面談可能という雰囲気をつくるのが大切であろう。	
②学年内・学年間・専門部内・専門部間等学校全体で情報を共有	総務	イントラ（校内ネットワーク）を活用し、朝の打ち合わせや職員会議を円滑に行う。	職員連絡や会議内容の50%以上をペーパーレスで行う。職員会議を職員室PCを利用して開催する。	B	職員会議のペーパーレス化も達成し、より会議がスムーズに行われるようになった。	33%	54%	13%	0%	3.2	B	今後も業務に関してPCの活用幅を広げて各会議にかかる準備時間も含めより一層時間を短縮出来るよう検討する。	■職員会議のペーパーレス化は、すばらしいと思う。実施に際して、問題点は出てくると思うが、解決してより推進してほしい。

職員アンケート結果 A：満足 B：やや満足

C：やや不満 D：不満

(2) 教職員の意識の高揚

項目	部・学年	目標（課題）	評価指数	中間評価	最終報告	A B C D				スコア	最終評価	次年度へ向けた展望	学校評議員・学校関係者評価委員の提言
						A	B	C	D				
①計画的な職員研修の実施	保健	心肺蘇生法講習会（エビベン講習も含む）を実施し職員の救命に対する意識を高める	職員の参加を100%にする	B	講習会に参加出来なかった職員には救命救急に関するパンフレット等で学んでもらったが、実際に体験することはできなかった。次年度は講習日程を増やす等改善を図りたい。	18%	73%	9%	0%	3.1	B	講習会日程を数日設け、全職員が体験出来るように計画を立て取り組みを続け救命に対する意識高めたい。	■しっかりと研修体制ができていと思う。先生方は多忙だと思うので、短時間で効果的な研修をかんがえてもらおうというのではない
		教職員の資質向上につながる研修を各専門部が1回以上主催する。	年間10回以上の職員研修会を実施する。	B	1月末現在で、計13回の研修会を実施した。これから年度末に向けて、更に研修会を予定している。	0%	76%	24%	0%	2.8	A	来年度も計画的に職員研修会を実施したい。	
	学力向上委員会	外部の様々な研修を利用し、校内研修で還元する。	各研修会の報告を年5回以上行う。	B	1月末現在で、計5名が研修会の報告を実施した。	0%	78%	22%	0%	2.8	B	来年度も積極的に研修会に参加していただき、終了後は研修会の報告をしていただきたい。	
		アクティブラーニングの研究を深め、各教科の研究発表を行う。	各教科の研究発表を3回以上行う。	B	11月に実施した研究授業では、どの教科も生徒を主体的に動かす授業を展開していた。アクティブラーニングを積極的に導入しようとする動きが感じられる。	4%	74%	22%	0%	2.8	B	来年度入学生から大学入試制度が変わり、授業で想像力・表現力また主体性を養う指導が要求される。来年度も継続して積極的に授業研究を進めてほしい。	
		公開研究授業を実施し、見学した教員による評価を行い、授業改善に繋げる	各教科研究授業を年3回以上実施する。	B	11月に研究授業を実施。全教科が1名以上授業を公開した。現在、2月から始まる「第2回研究授業」に向けて準備を進めている。	4%	83%	13%	0%	2.9	B	各教科において、公開授業期間中に研究授業を実施したが、この他に実施したのは数学科と理科だけであった。各教科で学期に1回を目標に研究授業をしていただきたい。	
②部・委員会・学年及び各教科の目標とその成果と課題の明確化	校務運営委員会	各部・学年の目標を明確にし、年度末にその成果と課題を明らかにする。	各部・学年の数値目標を設定させる。	A	各部・学年・委員会とも評価指数を数値化することで、達成状況を的確に把握することができた。	30%	52%	17%	0%	3.1	B	目標に即した評価指数の改善を図る。	■自己点検（評価）を行う仕組みがきちんとできており、よいと思う。
	教育課程委員会	各教科の目標を明確にし、年度末にその成果と課題を明らかにする。	教科の数値目標を設定させる。	B	年度当初に各教科シラバス（講義概要）を作成し授業を展開した。成果と課題は上記（1）①で報告。	15%	65%	19%	0%	3.0	B	教科内での情報共有だけでなく、学校全体で共有できるようにしたい。	
③心身の健康と適正な勤務時間の維持	校務運営委員会	業務の分担を各部・学年で徹底させる。	部長・副部长、主任・副主任を中心に業務の分担を整理し、構成員からの業務分担に関する評価を80%以上にする。	B	勤務時間の適正化もふまえ、業務の担当部署が的確に遂行できるよう、主任・部長が担当者から事前に校務運営委員会に提案、または決裁の形を取り入れた。	4%	61%	30%	4%	2.7	B	まだ、一部教職員に業務の負担が偏っているため、学校全体として業務に取りかかれるように校務運営委員会の活性化を図る。	■勤務時間を点検（評価）の項目に入れておくことはよいことだと思う。
	衛生委員会	業務のスリム化や勤務時間の適正化への提案を職員から募り、学校としての取組とする。 年次休暇の取得を奨励する。	衛生委員会の提案を職員で共有し、完全に定時退勤する日を設定する（10日以上）。 1人年間10日以上年次休暇を取得する。	A C	勤務時間の適正化に向けた取組目標や具体的な取組を教職員の総意で設定、職員会議のペーパーレス化が特に効果的であった。 平成29年度は教職員55名（臨時講師除く）の年休は、年間平均11.6日の取得。	30%	39%	26%	4%	3.0	A	校内の衛生環境について、不十分な点を調査して環境整備にも努める。	
						4%	36%	40%	20%	2.2	B	超過勤務過多にならないよう、管理職が業務工夫改善を行う。	

(3) 教育環境の整備と学校評価の推進

項目	部・学年	目標(課題)	評価指数	中間評価	最終報告	A	B	C	D	スコア	最終評価	次年度へ向けた展望	学校評議員・学校関係者評価委員の提言
①どの生徒も安心して通える教育環境づくり	2年	生徒の様子に常に気を配り、声掛けや面談をこまめに行うことで、人間関係のトラブル等を未然に防ぐ。	いじめ・特別指導の発生件数0件にする。	A	いじめの発生件数は0件だが、人間関係のトラブルは複数件あり、その都度カウンセリングや教員が立ち会っての当事者同士の話し合い等を行った。	27%	58%	15%	0%	3.1	A	生徒の日頃の言動を注視し、こまめに面談等を行うこと、生徒の声に耳を傾け、教員との「風通し」を良くすることで、いじめの発生を未然に防止する。	■学校評価をきちんと推進することができていると思う。今後も継続して進めていきたいと思う。
②学校評価の検証と学校改善	総務	PDCAサイクルを完成させる。特にC/Aについての検証を十分に行う。	年2回の学校評価を行い、中間評価でCランク以下の項目について最終評価ではBランクにする。学校評議員会を年3回開催する。	B	今年度の最終報告を受けて、本校の現状を捉え、各項目で特にC以下のものに関しては具体的対策を早急に行う。	0%	83%	17%	0%	2.8	A	最終報告の振り返りから次年度さらに向上するよう具体的な課題や取り組みを挙げる。また開催時期・回数も含め今後も検討する。	

	評価指数				平均 4点満点	評価なし	中間評価
	A	B	C	D			
(1)「確かな学力」を身につけ、「夢」や「志」の実現に粘り強く挑戦する生徒の育成	8	15	2	0	3.2	0	2.9
(2)思いやりの心と規範意識を持ち、共生社会の実現を目指す人間性豊かな生徒の育成	4	5	1	0	3.3	1	3.1
(3)心身ともに健康で、社会の変化に柔軟に対応できる生徒の育成 【活力ある組織づくり】	5	4	1	0	3.4	0	3.4
(1)情報の発信・共有	4	3	1	0	3.4	0	3.5
(2)教職員の意識の高揚	2	8	0	0	3.2	0	3.1
(3)教育環境の整備と学校評価の推進	2	0	0	0	4.0	0	3.5
	A 満足	B やや満足	C やや不満	D 不満			

【その他のご意見】

1	目標の設定そのものが甘くなっていないことを願う。
2	メーカー的なものの見方からすれば、学校にとっての「顧客」は生徒であると思う。先生方が生徒に身に着けてほしいと考えるものと、生徒の「満足」は必ずしも一致するとは思わないが、評価の視点の中に「顧客満足」の視点があってもよいのでは。その視点に加わった「学校評価」が実現できれば、自己満足に陥ることのない学校評価につながっていくと考える。
3	今年度はPTAとして特色推進部の先生方に大変お世話になった。「生まれ変わった図書室」を多くの生徒たちが利用していると聞き、大変うれしく思う。大幅なレイアウト変更、地道な作業や仕事が多く大変だったと思う。ご尽力に心から感謝申し上げます。
4	以前と異なり、猛暑日が何日も続くようになっている。電気代の予算などのコストがかかるが、学習環境の整備として、夏の学校生活をより快適に過ごすために、学校に改善して欲しいと思うことは「エアコンの設置・活用、使用条件の緩和」である。
5	子ども達が、夢や希望を持って進路選択ができるよう(中学生の進路選択の参考)「東灘高校」の特色、魅力ある高校づくりをこれからも進めていただきたい。
6	「生徒アンケート結果」の「5 あなたは、周囲の人や社会から必要とされていると思いますか」で「C(あまりそう思わない)」が33%と多いことが気になる。これは自己肯定感に対する不安の表れではないか。自己肯定感の不安は、「問題行動」のひきがね、きっかけにもなりかねないと思う。この面でのケアに傾注されることを望む。
7	「生徒アンケート」の設問の内容が漠然としていて、答えるのに悩みそうな質問内容になっている気がする。(例:「5 あなたは、周囲の人や社会から必要とされていると思いますか」「6 東灘高校のHR活動は、あなたの高校生活の充実役に役立っていますか」)もう少し、質問内容を検討してほしい。
8	「生徒アンケート結果」の「13 あなたは、東灘高校に入学してよかったと思いますか」で全体で23%、1年生のみで27%近くが「C(あまりそう思わない)」「D(そう思わない)」の答えがあるが、約1/4の生徒が東灘高校に入学して充実感のない回答で、少し問題視する必要がある、どこに問題があるのかを十分に精査し、一人でも多くの生徒が「やっぱり東灘高校に入学してよかった」と思ってもらえるよう検討する必要があると思う。
9	「保護者アンケート結果」でも「E(よくわからない)」の回答が多く見られ、保護者にも学校運営が理解されていない一面が拝見できた。評価のよい部分だけでなく、悪い部分の改善方法も来年度の学校経営の課題として検討いただきたい。
10	学校評価【最終報告】は、進捗状況も概日頃の先生方の努力の成果が表れていると思う。大きな改善は難しいが地道な指導が、東灘高校の生徒にとって「夢の実現への一歩」となる学校になると思う。